



▲尾道みなと祭や地域の敬老会など、行事にも積極的に参加しています。

安心な生活のため 日々活動しています

地域で生活する皆さんが、安心して暮らしやすくなるための活動をしています。子どもから高齢者・障害のある人など、あらゆる人の福祉の相談に応じ、必要な支援が受けられるよう関係機関などつなぐ役割をしています。また、委員には守秘義務があり、安心して相談することができます。

高齢者の見守り

一人暮らしや寝たきりの高齢者世帯、障がいのある人などの見守り訪問。

他にも、サロンで楽しんでもらいながら、皆さんが抱えている悩み・困りごと相談にも応じています。

子育て支援

子育て家庭の応援として、子育てサロンへの参加や、4カ月健診時のブックスタート、子どもの虐待防止に協力しています。

また、学校と連携して、登下校見守りなどの青少年健全育成活動も行っています。

防災

自力での避難が困難な高齢者や障害のある人を把握し、支援のための体制づくりや、行政や町内会、地域住民、関係機関と連携した避難訓練などを実施。「災害時に一人も見逃さない運動」に努めています。



▲サロンで楽しむ高齢者の皆さん



▲登下校時の見守り活動



▲防災訓練での心肺蘇生・AED使用訓練

委員同士で課題共有

尾道市では、各区域で月に1回程度の定例会を開催しています。委員同士の連携をはかりながら、活動を進めています。

また、生活福祉、児童福祉、高齢者福祉など課題ごとに分かれた部会があり、困難な課題を抱える世帯への支援方法などを共有し、研修なども行っています。



▲難しい課題は、委員一人で抱え込まず、定例会・部会などで共有しながら解決の糸口を探します。

活動 の声

地域の絆をつなげる 生きがいを感じています

63歳で因島15区の民生委員児童委員となり、今年で12年目となる坂本欽一さん。委員就任までは仕事一筋。定年を機に、地域で何かできることをしたいと思い、委員の委嘱を受けたそうです。「委員活動は、想像以上に関係先との連携が必要な仕事でした。複雑な社会問題が増え、委員の役割が増えているように感じます。しかし、年数を重ねるにつれ、地域の皆さんとの協力・支援関係が深まっています。」



坂本欽一さん
第15民児協区委員

地域にとって火災警報器の役割に

「大火事になる前に知らせる火災警報器のように、私たちの活動は、地域でのトラブルが大きくなる前に、解決することだと思っています。そのために、一人暮らしや子育てなど、さまざまな問題を抱える家庭を訪問し、相談を受けています。平日頃からあいさつや日常会話を大切にして、地域の皆さんと近い関係づくりを目指しています。私の活動が、地域の皆さんの幸せな生活につながれば嬉しいです。」

穏やかながら熱意のある口調で、坂本さんはそう語りました。



▲因島水軍祭りに参加。地域行事にも積極的に関わっています。

その他にこんな声も

●お手伝いをしている子育てサロンでは子どもたちが寄ってきます。どうやら遠くの「おじいちゃん」に会っている感覚みたいです。私も楽しませてもらっています。

●自分自身が高齢者になることに不安を感じていましたが、今は自信がついてきました。

●研修会や親睦会などを通じて、たくさんの体験や経験から人間として成長が感じられ、充実感が得られました。

今年は3年任期の改選年 理解ある人の協力が必要です

現在の委員任期は、今年の11月30日までです。今後、地域に住むボランティア精神と社会福祉に対する理解がある人に、新たな委員をお願いすることになります。

交通費や通信費など必要な費用の一部が支給されるほか、活動中の事故や災害の際には活動保険が適用されるため、安心して活動できます。皆さんの活動への理解と協力をお願いします。

支えあう 住みよい社会 地域から(活動スローガン)



▲各区会長の皆さん